

岡崎平和祈念式 式辞

本日は、戦没者・戦災死者のご遺族の皆様、並びにご来賓の皆様方におかれましては、連日の猛暑と、ご多用の中、「岡崎市平和祈念式」にご参列を賜^{たまわ}り、心から御礼申し上げます。

終戦から今年で80年の歳月が過ぎようとしております。戦争を直接知る世代が少なくなる今日ではありますが、多くの方々が、戦争の犠牲となり、お亡くなりになられたことは、日本人として未来永劫忘れてはならない、深い悲しみの記憶であります。

ここに、日清・日露戦争から先の大戦において、祖国の安寧^{あんねい}を願い、家族を案じつつ、戦場に散り、あるいは戦禍に倒れられた方々、そして、終戦に間近い、昭和20年7月20日未明の岡崎空襲による約280名の犠牲者を含む、本市における多くの戦没者及び戦災死者の御霊^{みたま}に対しまして、謹^{つつし}んで哀悼^{あいとう}の誠^{まこと}を捧げます。

また、最愛のご家族を失われ、決して癒されることのない深い悲しみを胸に、今日に至るまで長く苦しい日々を過ごして来られましたご遺族の皆様のご心痛^{しんつう}を拝察^{はいさつ}いたしますと痛惜^{つうせき}の念に堪えません。ここに改めて、戦没者の皆様のご冥福^{めいふく}を心よりお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様の長年にわたるご労苦^{ろうく}に対しまして、心から敬意を表します。

戦後、本市は、平和を願う市民の英知と弛^{いた}（たゆ）みない努力によって、荒廃の中から立ち上がり、幾多の困難を乗り越え、目覚ましい復興と発展を遂げてまいりました。今月1日には、無事に市制施行109周年を迎えることができましたことを心より感謝申し上げます。

本市のこうした歩みは、戦争によって心ならずも命を落とされた方々の犠牲の上に成り立っていることを、私たちは決して忘れてはなりません。

しかしながら悲しいことに、世界では今日なお、武力による紛争が後を絶ちません。改めて、戦争の悲惨さと平和の尊さを深く心に刻み、その記憶を風化させることなく次の世代に継しっかりと継承していくこと、そして、次の世代を担う子どもたちが夢と希望を持って、未来を切り開いていける社会を実現することが、私たちの使命であると考えます。

こうした社会の実現のため、子育て支援や教育の充実などの基本施策を充実させることにより、岡崎で生まれ育った子どもたちが、自らのふるさとに対して、これまで以上の大きな愛情と誇りを持てる「夢ある新しい岡崎」の実現に、全力で取り組んでまいり所存であります。

最後になりますが、戦没者及び戦災死者の御霊^{みたま}が安らかでありますこと、そして、ご遺族並びにご参列の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、式辞といたします。

日にち：令和7年7月18日（金）
場 所：図書館交流プラザリぶらホール

令和7年7月18日 岡崎市長 内 田 康 宏